

認証評価機関が行う自己点検・評価に対するコメントについて

令和7年度に自己点検・評価を行った認証評価機関3機関の報告書を確認し、優れている点、更なる充実又は改善を期待する点と認められるものについてコメントする。

各認証評価機関においては、引き続き法令に適合した公正かつ適確な認証評価の実施に取り組むことはもとより、この度付されたコメントを踏まえ、認証評価の更なる充実等に一層努めることを期待する。

なお、今般実施した自己点検・評価に係る報告書については、遺漏なく公表すること。

令和7年12月

中央教育審議会大学分科会
認証評価機関の認証に関する審査委員会

【公益財団法人大学基準協会】

＜優れている点＞

- ・令和7年度から開始された第4サイクルの大学及び短期大学の認証評価において、評価における学生参画の仕組みとして大学基準協会が作成するウェブアンケートにより評価対象大学の学生から意見を収集する機会を設けているとともに、大学の特色や優れた取組をより適切に評価できるよう実地調査において学外ステークホルダーへのインタビューを取り入れている。また、一定以上の評価を受けた大学については大学が重点を置く観点での自己点検・評価を可能とする弾力的措置の導入や、評価者のみが参照していた「評価者マニュアル」を廃止し、公表資料である「大学評価ハンドブック」に情報を集約することにより、評価対象大学と評価者の情報格差を減らすなど、評価手続の実効性と柔軟性を高める取組が行われていることは優れている。
- ・大学評価基準の改定等を行う「基準委員会」に大学関係者以外の有識者が参画しており、多様な視点を確保している点は評価できる。
- ・“learner-centered higher education”の考えに立ち、評価基準の改定に際して、パブリック・コメントで学生からも意見聴取していることは評価できる。
- ・評価者向けの研修を、評価の概要や方法の説明のみならず、実際の評価を模したワークショップ形式により実践的な要素を取り入れて実施するとともに、研修受講後のアンケートで受講者からフィードバックを得ている点は評価できる。
- ・評価結果が「適合」であった機関に対しても、アフターケアの一環として改善事項に関する報告を求める仕組みが確立していることは評価できる。また、評価対象大学に対して有効性調査を実施し、評価の効果を把握している点は優れている。
- ・国際ネットワークである INQAAHE による外部評価で運営体制が評価されており、評価機関としての国際通用性が担保されていることは優れている。また、評価結果等をホームページで英語でも公表していることは、国際的信頼性の向上に寄与しており、評価できる。
- ・内部質保証や学習成果の把握・評価についての大学の理解が深まるよう、事例報告会を毎年開催するとともに、質保証に取り組む文化の形成・人材の育成のための「スタディー・プログラム」や「スタッフ派遣」、公開研究会、選書の出版などを行っている点は優れている。

＜更なる充実又は改善を期待する点＞

- ・なし

【独立行政法人大学改革支援・学位授与機構】

＜優れている点＞

- ・実地調査において、卒業生・修了生に対しても面談を行ってきたことは評価できる。
- ・第4サイクルから、評価対象大学に対する大学別研修の実施を実施大綱に定め、大学への研修実施を可能にしている点は評価できる。
- ・高等専門学校の機関別認証評価において、負担軽減を目的として自己評価書を見直し、第4サイクルから前回の機関別認証評価で改善を要する点と評価されなかった観点の分析免除、専攻科では第三者評価結果の利用の範囲の拡大などの取組を開始した点は評価できる。
- ・第2サイクルの10の基準を、第3サイクルでは6領域27の基準に改めたことで、より詳細な現状把握が可能となり、評価対象大学に対して優れている点と改善を要する点をより的確にわかりやすく指摘できるようになった点は評価できる。

＜更なる充実又は改善を期待する点＞

- ・大学機関別認証評価委員会における女性委員比率のうち、特に、運営小委員会や意見申立審査会の女性委員については、長らく不在が続いているため、委員構成の多様化が期待される。
- ・評価員の負担軽減のため、様々な工夫を凝らしてきた点は評価できるが、一方で、評価に係る作業の多くを機構教員や職員が担っているように見受けられることから、負担軽減と評価員の役割のバランスに留意した評価の実施が望まれる。
- ・各大学の自己評価書は根拠資料やデータの掲載を以て説明することを原則としているが、大学関係者以外の第三者から見てもよりわかりやすいかたちで公表することが期待される。
- ・今回確認を行った「認証評価事業に関する自己点検・評価報告書 機関別認証評価（大学・高等専門学校）」において、必要事項は全て記述されているものの、例えば大学評価基準の変更に当たっての体制や意見聴取内容、機構における認証評価実施結果の検証内容とそれを踏まえた改善プロセス等について、実態の把握が難しい箇所が見受けられた。今後自己点検・評価報告書を作成する際には、前回の自己点検・評価からどのような改善がなされたのかを含めて、より具体的な記載が望まれる。

【一般財団法人大学・短期大学基準協会】

＜優れている点＞

- ・米国西地区学校・大学基準協会（WASC）二年制高等教育機関認定委員会（ACCJC）の基準を参考し、国際的通用性を備えた評価基準を整備している点、また、内部質保証ループリックを用いて独自の基準を構築し、評価対象大学からも自大学の自己点検・評価の全体像を分かりやすく把握できると評価を受けている点は、本機関の特徴的な取組として評価できる。
- ・評価対象大学を含む全会員大学・短大向けの説明会及び当該年度の評価を担当する評価員に対する研修会について、毎年、対象者が評価への理解を深められるよう細やかに配慮して開催している点は優れている。また、説明会等終了後にはアンケート調査を実施し、その結果を評価委員会に報告し、次回の評価員研修会等に向けてマニュアル・実施方法等の改善に努めていることは評価できる。
- ・過去の自己点検で明らかになった課題を具体的に整理し、理事会等の承認を経て組織的に改善を実施している点、及びその改善状況を自己点検・評価報告書において明示的に示していることは評価できる。
- ・評価員の負担軽減のため、例えば財務に係る評価において一定程度機械的に判断できるようマトリクスで基準を作成する等の工夫を行っていることは評価できる。

＜更なる充実又は改善を期待する点＞

- ・短期大学の会員校減少は、今後も本機関の財政基盤の維持や評価員の確保において大きな課題となり得るため、短期的な対応策だけでなく、中央教育審議会で行われている新たな評価制度の議論も踏まえ、中長期的な見通しを持って対応策を検討していくことが期待される。